

高校生の留学促進

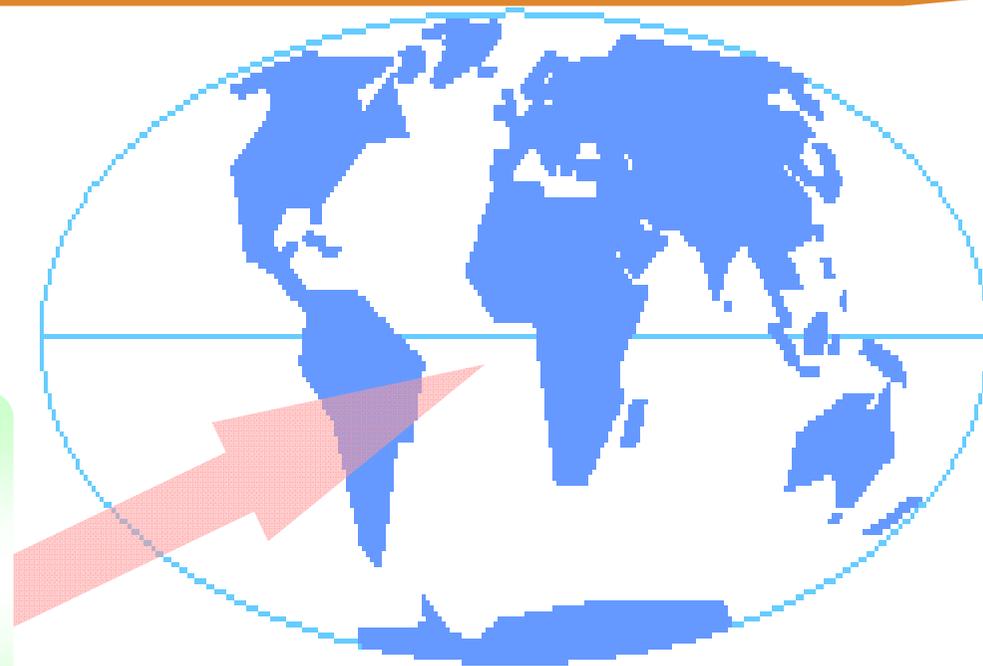
(平成22年度予算額 29,258千円)
平成23年度予算額(案) 27,362千円

高校生交流の意義

- ◆異文化理解に極めて大きな意義を有する
- ◆諸外国との友好親善の増進に寄与する
- ◆大学レベルでの留学やその後の国際交流活動の拡大につながる

事業の概要

- ◆内容: 留学経費の一部を支援
- ◆対象人数: 50名
- ◆対象条件:
 - ①交換留学の派遣プログラムへの参加
 - ②学資補填を必要とする家庭の子女で成績優秀である者
 - ③原則として、派遣プログラムの期間は1年間



高校生留学に関する提言等

- 国際交流政策懇談会「東アジアにおける交流に関するワーキング・グループ」最終報告書（平成22年7月報告）
→ [高校生以下の若い世代の交流施策等の推進](#)
- 新成長戦略（平成22年6月18日閣議決定）
→ [成長戦略実行計画（工程表）](#)：[高校生の海外交流支援の強化](#)
- 「『東アジア共同体』構想に関する今後の取組について」（平成22年6月1日内閣官房とりまとめ）
→ [未来を担う青少年の交流を抜本的に拡充するため、『5年間で10万人』の目標実現にむけ青少年交流を強化する。](#)

外国人高校生(日本語専攻)の短期招致

(平成22年度予算額 27,411千円)
平成23年度予算額(案) 25,429千円

招致人数 92名

海外の高等学校等で「日本語」を専攻している高校生を6週間、日本に招致し、日本の高校への体験入学、ホームステイ、異文化体験活動、交流活動に参加させる。

受入側(日本)

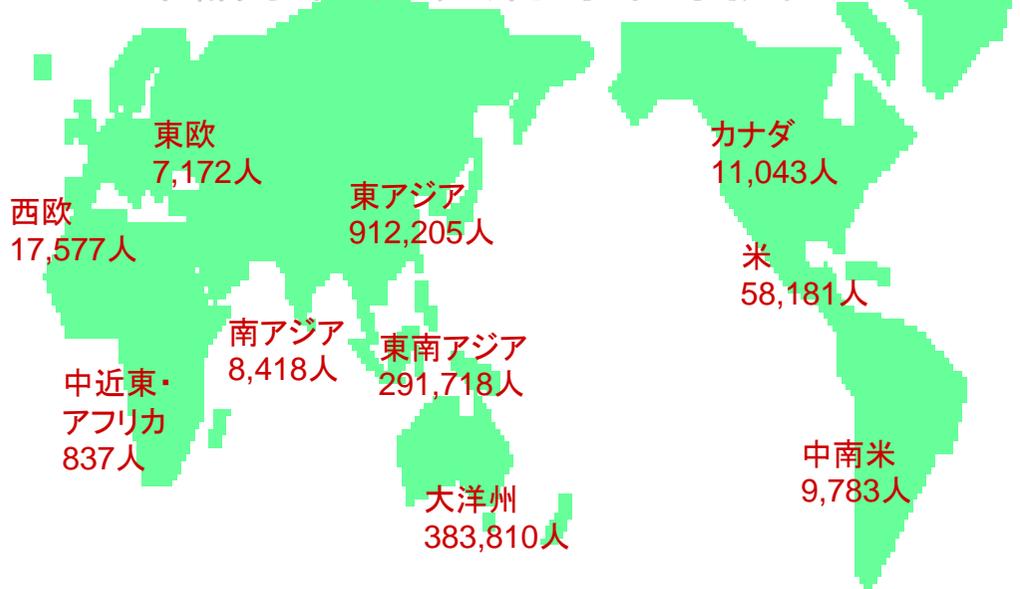
文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者との交流により、広い視野を持ち、異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々とともに生きていく資質や能力が育成される。

(外国語教育・国際理解教育への貢献)

招致側(外国)

対日理解、友好関係が促進される。また、高校生の年代での留学体験は、大学生レベルでの留学やその後の国際交流活動の拡大への貢献が期待できる。

日本語学習者数(初等中等教育レベル)



1,527,365人(2003年) → 1,700,744人(2006年)(11.4%増)

出典:「海外日本語教育機関調査」(国際交流基金)

スケジュール例

- 6月中旬 来日
- 6月中旬～ オリエンテーション(7日間)
- 6月下旬～ ホームステイ(7月末まで)
- 体験入学(高等学校)
- 各学校において、授業、交流活動等に参加
- 7月 小学校、中学校訪問・交流
- 日本の伝統文化施設等の見学
- 7月下旬 帰国



本校生徒にとって、大きな経験・思い出となった。日常の何気ない会話や生活の全てが異文化を理解する、生きた言葉を学ぶ良い機会となった。